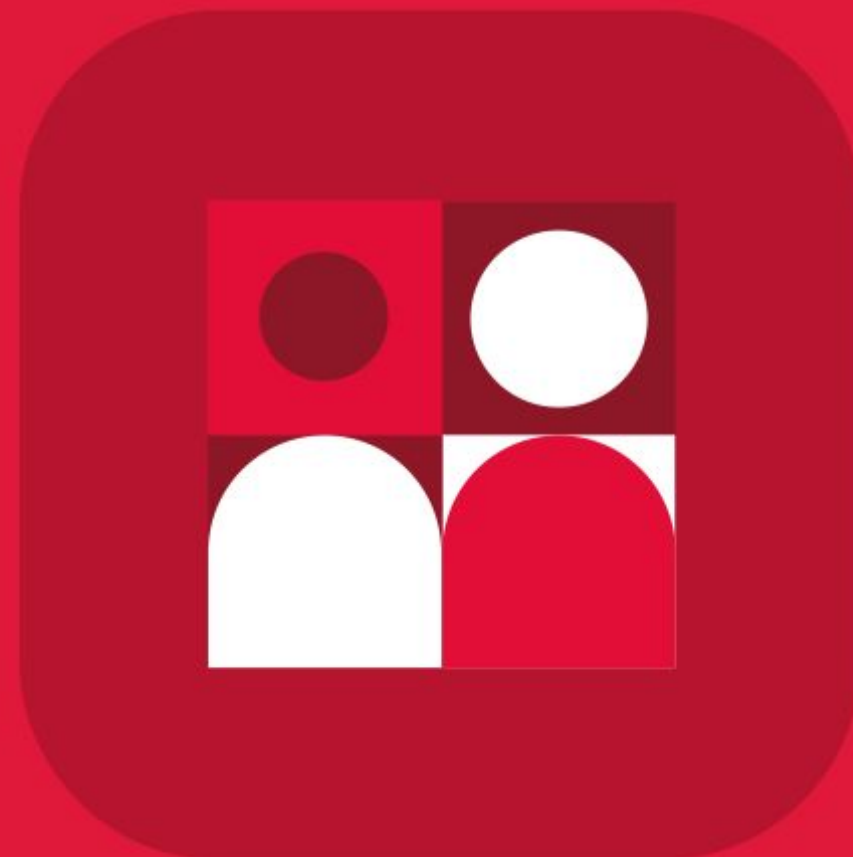


CIST

組織変革

DXを加速させる
チームの作り方

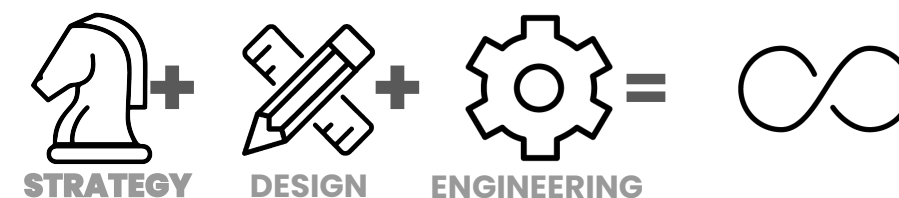




Driven by
Impact

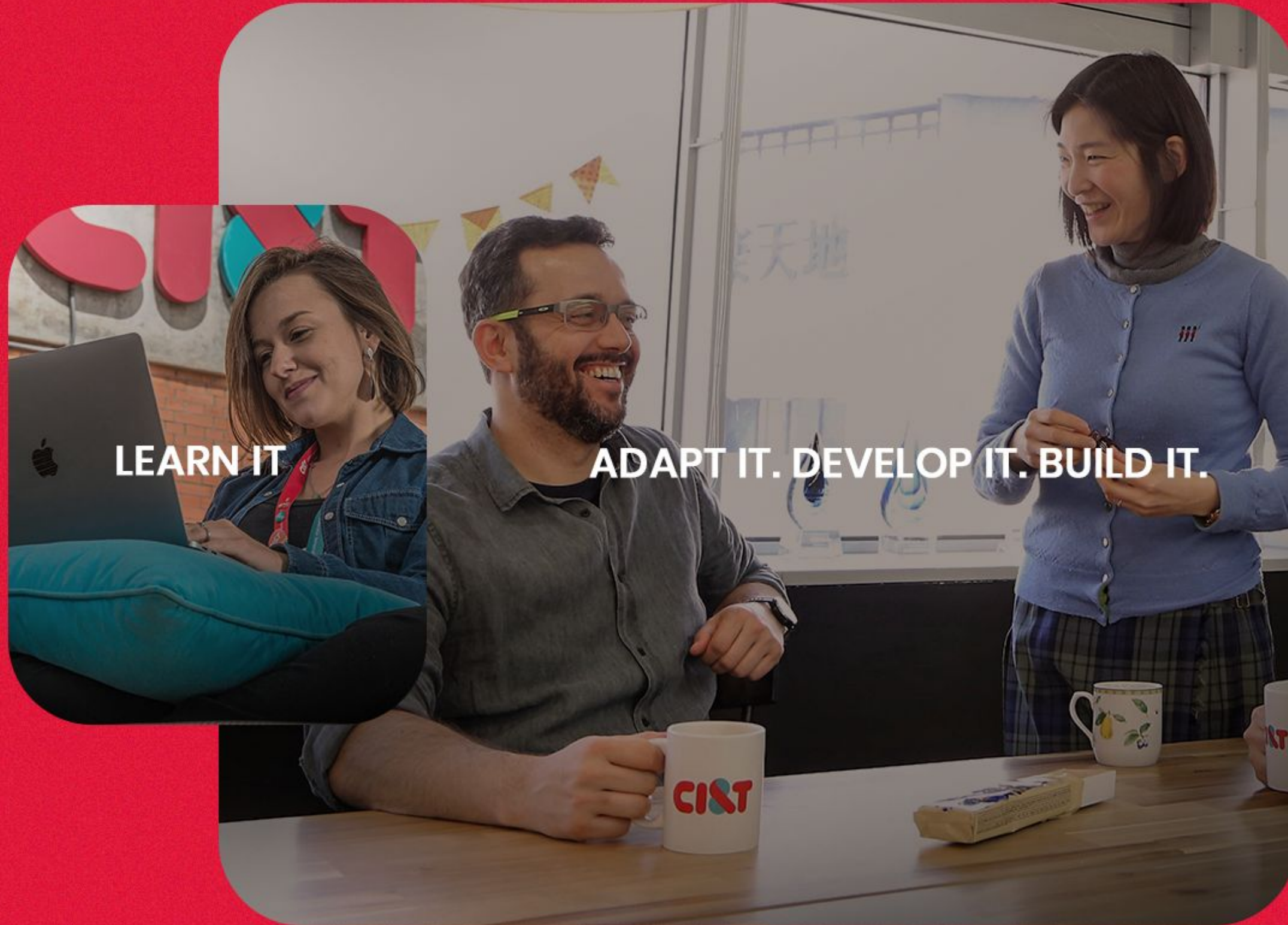
CI&Tとは

デジタルのエキスパート, デジタルネイティブな会社として生まれ、25年もの間、完全かつスケーラブルなデジタルソリューションの提供を通じ、各社のビジネスインパクトの加速に貢献してきました。戦略・体験デザイン・データ・エンジニアリング等、3,000人を超える専門家が、顧客体験・運用効率の向上、組織変革、そして最高レベルでの成長を二人三脚の姿勢で支援します。米国、ブラジル、英国、日本、中国で事業を展開しており、最近ではポルトガル、カナダ、オーストラリアにも事業を展開しました。ブラジルでは、14年にわたって「働きがいのある会社」に選出されています。





企業は社員によってできている。
変革を起こすのは、社員だ。



LEARN IT

ADAPT IT. DEVELOP IT. BUILD IT.

**TRANS
FORM
YOUR
SELF**

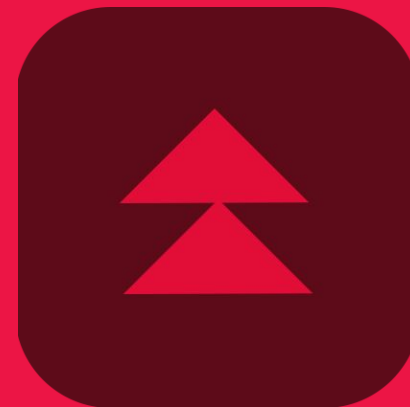
「社員がビジネス成果をもたらせる環境」を創る



「人」を第一に
考える



多様性を
尊重する



チームワーク



学びと継続的な成長



自由度の高い
職場環境

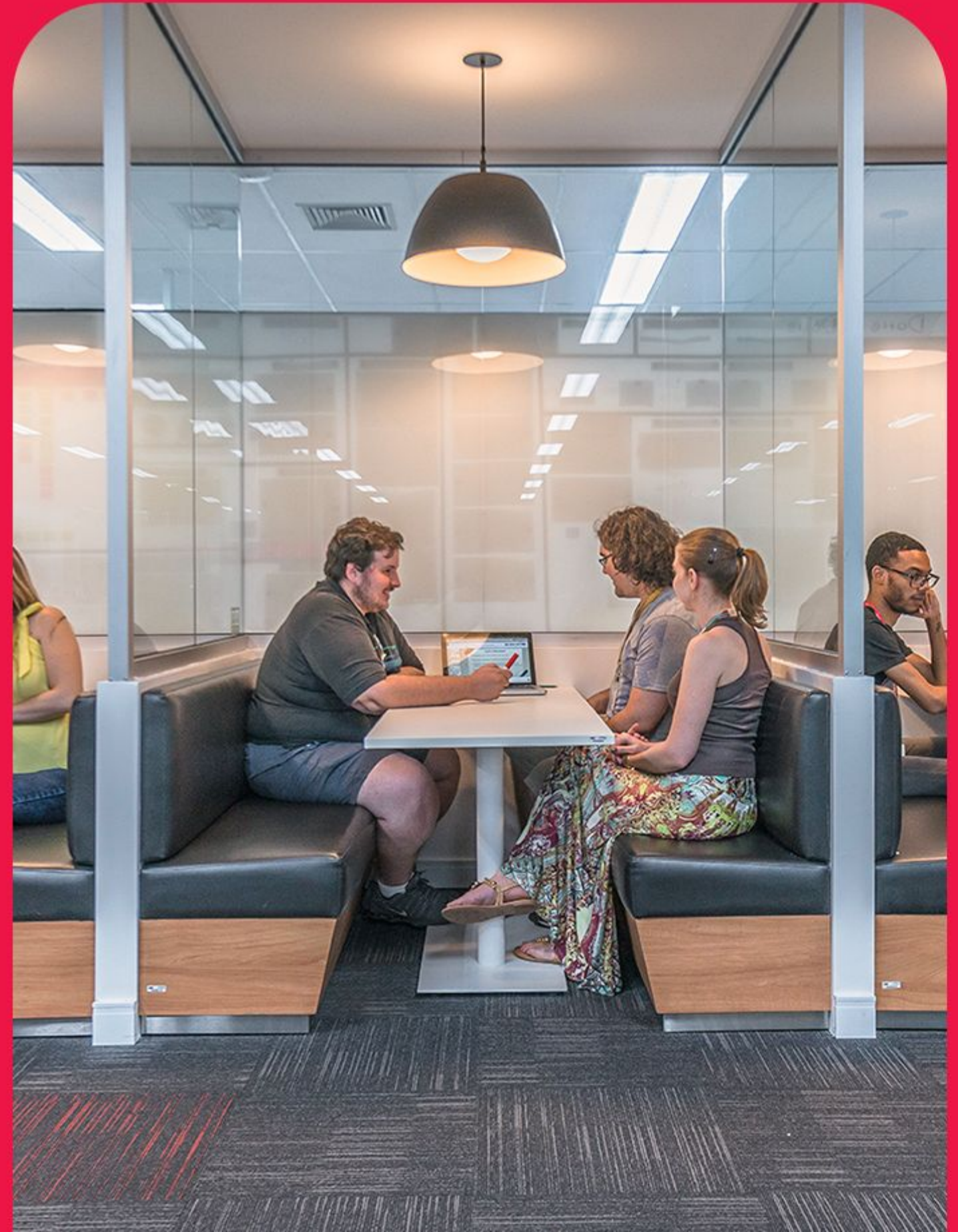


「人」を第一に

何よりも社員を大切に。

一人一人の価値観や目的について

話し合い、明確にしましょう。



個人として、また大きなコミュニティの一員としての、異なる見解、考え方、立場があり、それが様々なアイデアを生み出し、私たちを成長させてくれます。異なる視点を持つ多様性に富んだ社員を持つことは、創造性を高め、イノベーションを促進します。

文化的、人種的、年齢的、性別的、思想的な多様性は、私たちの視野を広げ、既成概念を解き放つ唯一の方法です。

**CI&Tは、左記の理念のもと、
多様性に富んだ、包括的で創造的な環境を
創造し、より良い社会の実現に励んでいます。**

THINK
PEOPLE FIRST



スタッフにインタビュー！（その1）

顧客企業 | 業界: 通信

プロジェクト: 法人向けアジャイル開発プロセス構築

課題: アジャイル開発をBtoBとして回すことの難しさ（契約内容と開発における柔軟性の維持）。チーム作り。



私はいつも「**どんなアジャイルトランスフォーメーションも人から始まる**」と思っています。そして、人が成長するためには、「**信頼**」と「**自信**」が必要です。

私たちが一緒に仕事をした会社では、彼らのアジャイルプロセスの構築を支援するという契約でしたが、私たちが本当に彼らに与えたものはリーンデジタルトランスフォーメーション（リーンDX）でした。アジャイルプロセスはそのためのツールの一つに過ぎません。

抱えている問題を共有することは恥ずかしいことではありません。むしろ、**正直さと透明性が成功への鍵**です。顧客チームが自分の仕事に誇りと自信を持ち、社内経営層や彼らの顧客企業と信頼関係を築いているのを見て、とても幸せになりました。

橋永 ローズ

CI&T オペレーションマネージャー





多様性・学際性の高いチーム

インクルーシブで誰にとっても

安全な職場環境作りをします。

お互いの違いを大切にし、

尊重するようにしましょう。



異なる文化や背景を持った社員からなる職場環境は、ひとりひとりに新たな経験をもたらします。この世に、全く同じ人間などひとりもいません。それぞれの違いを尊重し合うことが基本です。特に今は、リモートワークで仕事をする機会が増え、人と人との接点が少なくなってきました。しかし、このような環境でも、新たなソリューションや可能性を生み出すためには、**多様な考え方や見解が常に必要**です。

自分のアイデアが共有でき、創造的に考える自由があり、才能を伸ばし、それを活用するための環境が整っている企業であることが大切です。さらに、社員全員が平等に学び、共有し、教え合うことを奨励するような環境が必要です。

共通の目標に向かって、全員が積極的に参加し、意見を交換できるような発言力を持つように、尊敬、安心、信頼が十分に発揮されるような協働環境を作る必要があります。インクルーシブな環境を醸成するためには、ひとりひとりが個々の役割に責任を持たなければなりません。また、**互いを尊重する姿勢は、常にあるべきもの**。たとえ自分と視点が違っていても他者の意見に耳を傾け、すぐに批判をしない。オープンなマインドセットを持つことが基本です。

企業がグローバルになればなるほど、様々な経験や世界観を持つ社員・仲間が増えていきます。よって、キャリアの中で成長していくためには、よりオープンになる必要があると考えています。



スタッフにインタビュー！（その2）

顧客企業 | 業界: 医療機器

プロジェクト: 商品発注アプリ

課題: CI&Tと顧客企業の組織文化ややり方の違い。

三国に渡る開発チーム（日本、中国、ブラジル）の文化の違いや時差。



CI&Tが最も大切にしているのは、クライアントのプロセスを尊重・理解した上で、より良い解決策を提案することです。私たちはお客様と共に学び、改善を図る柔軟性を持っており、プロジェクト内においては、海外の開発チームとも**同じプロセスで作業を行うことを徹底**しています。

しかし多くのお客様にとって、新しいプロセスを採用することは**簡単ではありません**。

そこで私たちがまず最初に行うことは、CI&Tがどのようにプロセスを改善できるかを示し、**信頼して頂く**ことです。最初はCI&Tプロセスの一部を導入し、いくつも成功を収めながら、徐々に新しいやり方を構築していきます。私たちのやり方を押し付けるのではなく、お客様と共に**より良いソリューションを作り上げます**。



Cherie Cheong (シェリー)
CI&T スクラムマスター



チームワーク

より高い成果を挙げるため、
集団的知性(チーム)の力を用いて
日々の業務に活かしましょう。



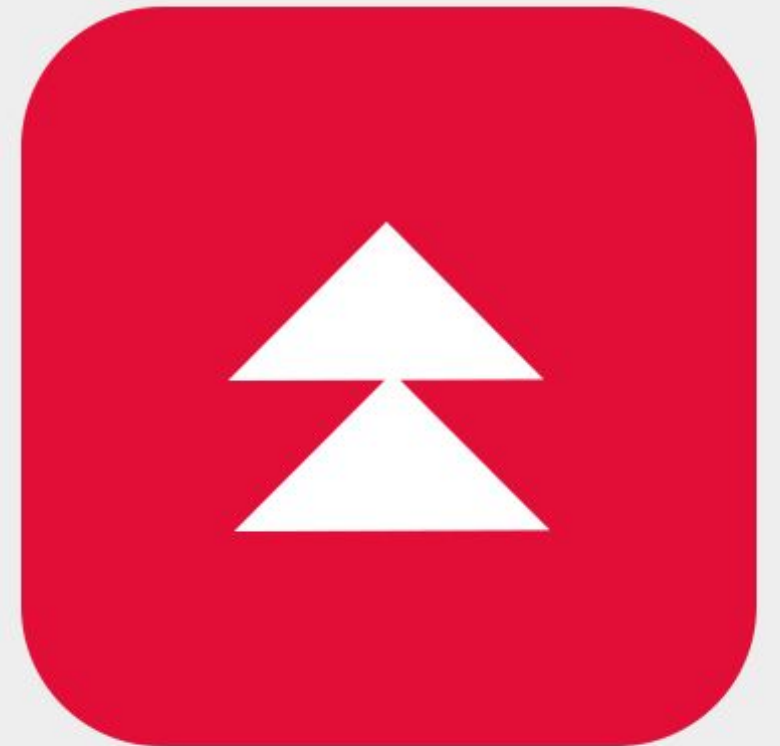
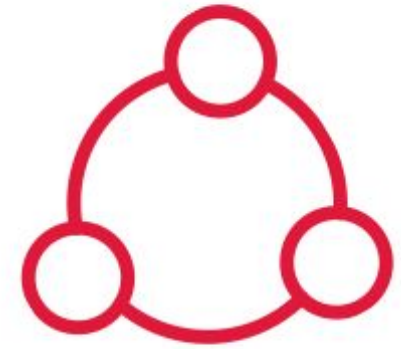
他人の立場になって、客観的に判断する能力は、**コラボレーションを生み出す上で重要**な部分です。先入観を取り払い、仲間の視点にオープンになることが必要です。

文化的、民族的、社会的、様々な違いがあります。しかし、相互理解と尊重こそがチームワークに繋がります。これは人財開発の基本で、異なる視点を検討することで、ソリューションの多様性と持続可能性を高めることが可能になります。

集団的知性は好奇心に火をつけ、新たな学びをもたらし、視野を広げ、イノベーションを育みます。これはデジタル時代には貴重なものと言えます。世界中の多様な消費者のニーズを満たすために、これまでにないものを創造する能力とスピードが相まって、企業に大きな影響をもたらします。

好奇心や学びをはじめとするイノベーションの種はすべて、他者への**共感**があって初めて生まれます。それによって社員ひとりひとりが、安心してアイデアを共有できるのです。「共感をする」ということは、集団的知性を強化する、よりコラボレーションのある環境において不可欠です。

「他の誰かの立場に立つこと」は、信頼を確立する方法の1つです。あなたと仲間の繋がりを強化し、間違いなくプロジェクトにも良い影響をもたらします。仲間から指摘を受けたら、その指摘の価値を認め、反映してみましょう。これを実践すれば、争いは減り、建設的にアイデアを共有し合うことができるので、より良い結果をのぞむことができます。



スタッフにインタビュー！（その3）

顧客企業 | 業界: プリンター、デジタル製品
プロジェクト: 新製品・サービスのためのグローバルサイト
課題: 顧客企業の日本チームとグローバルチームのコミュニケーション（言語・時差）。
ウォーターフォールからアジャイル開発への移行。



アジャイルコーチとして近畿地方の顧客日本支社に駐在しました。上記の課題と一緒に乗り越えるために、**まずはチームの一員としての信頼関係を築くこと**から始めました。全ての会議に参加し、常に現場を見ることで、その時に彼らが直面している課題を理解し、海外チームとのコミュニケーションの架け橋となれるよう努めました。

またアジャイル開発においては、CI&Tは単に「正しい」「間違い」を指摘するのではなく、お客様のチームの一員となり、**少しずつ新しいプロセスを導入**していきます。このプロジェクトで一番良かったのは、リーダー層が新しいことを学び、取り入れようとする姿勢を持っていたことです。リーダーが変わればメンバーもついてくるので、チーム全体と一緒に成長することができます。



Ingrid Tsukahara (イングリド)
CI&T Quality Manager





継続的な学びと成長

常に興味を持ち、学び、

そして知識を共有しましょう。





学び続けるということは、さまざまな経験を通じて常に学習し、経験を活かしてキャリアや私生活に変化をもたらすということです。この考え方は、**70:20:10の学習モデル**によって提唱されています。これは、私たちが知っているすべてのことのうち、10%は形式的な学習から来ている、20%は社会的背景から来ている、そして70%は実験的な経験から来ていると主張する研究です。つまり、私たちは「やってみて学ぶ」のです。正しいことも間違っていることも含めて学びです。より多くの経験をすればするほど、大きく成長できます。

また、知識を得ることは重要ですが、共有されて初めて意味を成します。情報の共有と、コラボレーションの精神が必要です。このような特性が多くの企業で評価されるようになってきています。**一丸となって、成果を構築していく**マインドを取り入れていきましょう。

新しい知識やスキルを身につけるのと同じくらい重要なのは、**学び直す能力**を身に付けることです。今日は正かったことが明日には意味をなさない、なんてこともあり得ます。常に学び、疑問・好奇心を持って、より良い企業の創造に貢献するにはどうしたらよいかを考えてみましょう。

**LIVE IN THE
PROCESS OF CONTINUOUS
DEVELOPMENT**



スタッフにインタビュー！（その4）



川渕 洋明（ぶっち）
CI&Tカスタマーサクセスリーダー

LIVE IN THE
PROCESS OF CONTINUOUS
DEVELOPMENT

顧客企業 | 業界: AOKI

プロジェクト: 製品/サービスの創造、開発

概要: AOKIの新サービス「スーツボックス」の
アイデア作成から設計、開発、テストまでを一貫サポート。



今回、CI&Tはアイデアを作るところから関わりました。「良いアイデアをどう形にしていけるのか」というところで、ユーザーへの定性・定量調査などから価値検証を行い、そのアイデア自体が実際に市場に受け入れられるのか、そしてそれを支えるもの（オペレーション等）についてまで、**想定できるものになるべく明確**にした上で開発を行いました。

ユーザーの反応を知るためにクラウドファンディングを行い、資金も開発費に充てるなどし、なるべくお金と時間がかからない方法で検証・改善を積み重ねました。**無駄がなく、何か違っていてもすぐに方向転換できる身軽さ**は、リーンの考えによく即していたと思います。

開発では、MagentoというECプラットフォームにどうやってサブスクリプション機能をもたせるかなど課題もありました。でも、AOKIチームの「**お客様に良いものを提供しよう**」という考えと素早い判断、開発を進める上で課題・解決策・改善点などを話し合いながら共に作り上げていけたことでお互いに納得感も生まれ、大きな達成感を感じることができました。





自由度の高い 職場環境

他人を大切にし、

自分の空間や自律性を

保ちましょう。





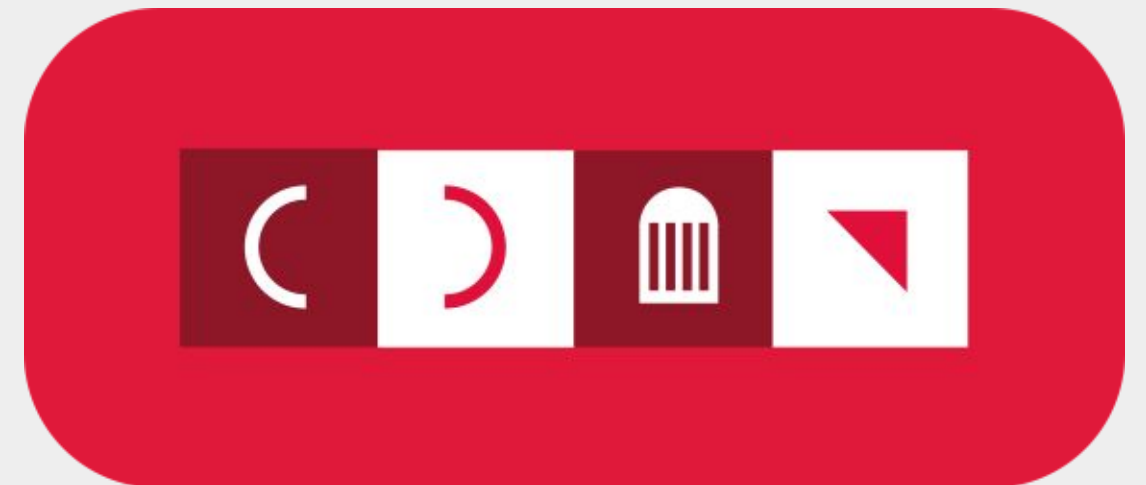
自分自身を指示するということは、チャンスであれ逆境であれ、**自分の選択に責任を持つこと**です。自分のやり方に対して周囲の賛同を得るためには、自己認識から始める必要があります。自分自身と向き合うことで、自分の価値観、強み、進むべき分野、目的、展望を見極めることができます。

自分の経歴を分析することで、目標や野望を探求する自律性が高まります。自分のこれまでのキャリアと、これからのキャリア、両方についてじっくりと考えることで、自分の可能性をさらに引き出すことができるようになります。

何もない所から新しい仕事を作る事も可能です。多くの仕事は、昔からあったものではなく、事業を成長させるためのスキルやニーズに基づいて、人々によって作られたものです。

今、**起業家精神**が高く評価されています。まだ存在しない事業への潜在的な可能性を見抜くことは、新しいこと、次の挑戦を恐れることなく、パイオニアとしての可能性を発揮することです。起業家になるための必須スキルは、「学習」「コラボレーション」「透明性」「説明責任」「エンパワメント」です。

ここでは、柔軟性と自律性を大切にし、常に新しいアイデアや可能性にオープンであることを心がけてください。そうすることで、あなたの日常生活と周囲の人々の生活をより良いものにする、バランスの取れた環境を作り出すことができます。



CI&Tのサービス

～変わりゆく未来に向けて、顧客企業のビジネス価値を共に実現する～

CI&T Japan

における

主要サービス

01 デジタル変革(DX)支援

アジャイルやリーンを取り入れ、不確実性の高い新しい取り組み(前例があまりない斬新なアイデア等)や状況にも柔軟に対応できるような組織作りを支援します。

フローとして、対象となるプロジェクトを1つ選定して頂き、リーン手法(A3やデザインシンキングなど)を用いてプロセス全体を設計。その後、CI&Tの開発チームとお客さまの開発チームが共に作業を進める中で、当社の開発手法を参考に、お客さまにとって最適な独自のプロセスを構築していきます。

02 プロダクト創造・開発支援

新しいユーザー体験を含むサービスやプロダクト創造において、CI&Tが企画・デザイン・開発まで一貫して支援します。

ビジネス課題の特定や仮説検証の支援を行い、CI&Tのリーン・アジャイル開発方式を用いて、重要な機能・要件を定義。その中でも優先順位の高いものから順に短期開発サイクルを繰り返し、成果物をお客さまに提供、確認して頂くことで、速く、臨機応変にビジネス価値のあるものを構築することができます。

03 ウェブサイト・アプリケーション開発

Drupal/AcquiaサービスにおけるCI&Tの豊富な知見を活かし、新規デジタル体験構築やウェブサイトの刷新、移行を行います。

上記「プロダクト開発支援」と同じく、企画・デザイン・開発まで一貫して支援。CI&Tのリーン・アジャイル開発手法により、重要な機能・要件を定義します。中でも優先順位の高いものから順に短期開発サイクルを繰り返し、成果物をお客さまに提供、確認して頂くことで、ビジネス価値のあるものを速く構築することができ、途中の要件変更にも柔軟に対応します。ウェブサイトの多言語化、管理集約なども可能です。

(例)

サービス提供の流れ

ビジネス目標を実現するまで

1 分析・企画

現状課題・原因の洗い出しと目標設定

- プロジェクト関係者全員参加型のワークショップ(A3・デザインスプリント)から、達成したい目標・ビジネス価値・要件を明確化
- プロジェクトロードマップ策定

- ステークホルダーへのインタビュー
- ユーザー体験リサーチ
- 市場調査
 - オン/オフライン、定性・定量調査



コカ・コーラ社とCI&Tのデザイン思考ワークショップの様子

2 デザイン

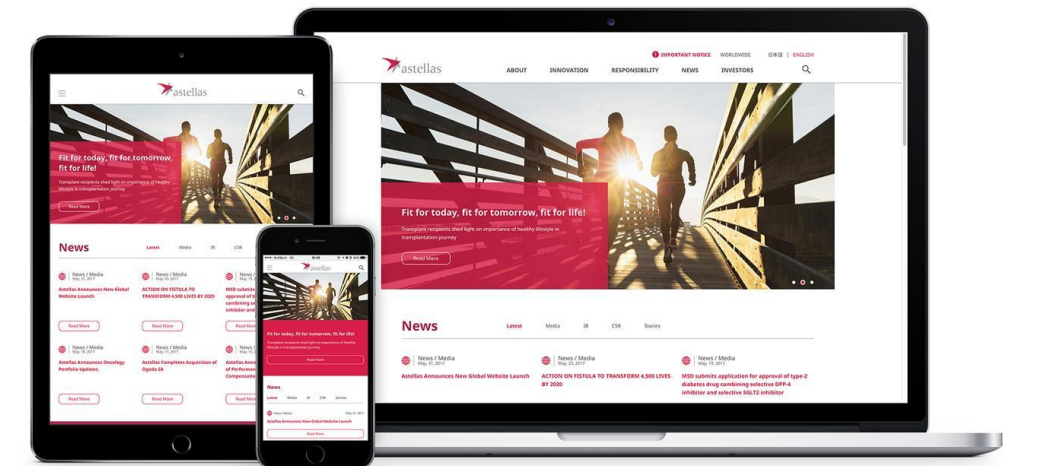
顧客体験・ビジネス目標にフォーカス

調査結果やデータ分析から、実際の顧客体験に沿うデザインを構築します。



デザイン

顧客体験



アステラス製薬様の新ホームページ

(例)

サービス提供の流れ

ビジネス目標を実現するまで

3

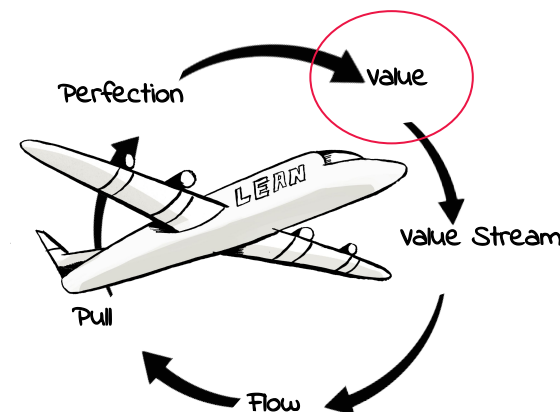
開発

リーン・アジャイル開発

アジャイル開発にリーン手法を組み合わせ、アジャイル開発であっても、**高い透明性・予測性・計画性を実現**します。図表を用い、進捗状況や課題を一目で確認できます。

2週間単位でスプリントを回し、要件定義、開発、テスト、改善を繰り返します。

- デイリー会議で毎日コミュニケーション
- 2週間に1度の振り返り
- Gemba Walk
- PDCA
- 細かい工数計測とBCP見積もり
- ロードマップ
- メトリクスで生産性・品質・リードタイムを数値化
- プロジェクトマネジメント
- ドキュメント(ビジネス要件定義書)



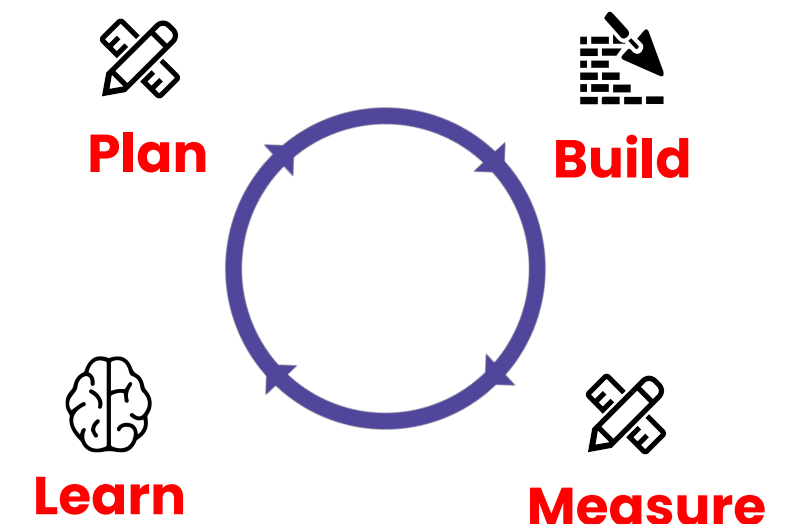
4

テスト

素早いリリースでチャンスを逃さない

目標達成のための**必要最低限の機能が備わったら、すぐに市場にリリース**し、実際にユーザーに使ってもらいます。そこから得たフィードバックも踏まえ、機能の追加・改善を繰り返します。開発チームとお客様で話し合いながら、プロジェクトの方向性を調整することも可能です。

素早いリリースから素早く学び、改善を繰り返すことで、ビジネス目標をより速く、確実に達成することができます。



CI&Tとリーン・アジャイル開発

ブラジル本社で**25年**・日本で**10年**
お客様により価値を感じて頂く開発プロセスの構築を行ってきました。

クリックして
ご覧ください！

リーン・アジャイル開発手法による顧客事例 記事

(KDDI、ONE、アステラス製薬、AOKI、CommonWelth)

リーン・アジャイル思考 関連ブログ記事

- [リーンとアジャイルの違い、そして有能なリーダーとは？](#)
- [アジャイルがテクノロジー市場にもたらす大変革](#)
- [アドホクラシー：企業のスピードを高めるマネジメントモデル](#)

リーン・アジャイル開発関連 & 顧客事例 ウェビナー：近日公開予定！

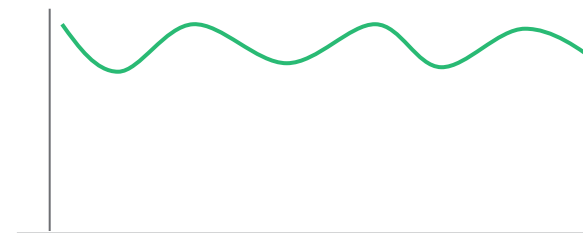
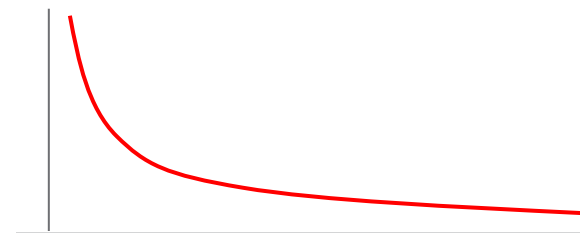
CI&Tのビジネスアプローチ

従来の方法

CI&Tのアプローチ方法



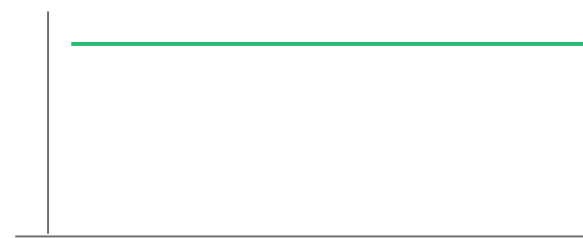
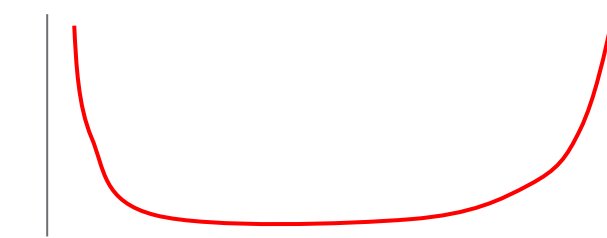
柔軟性



開発サイクルが短いため、必要に応じてスケールアップやスケールダウンが可能で、プロジェクトの方向性変更にも柔軟に適応可能。



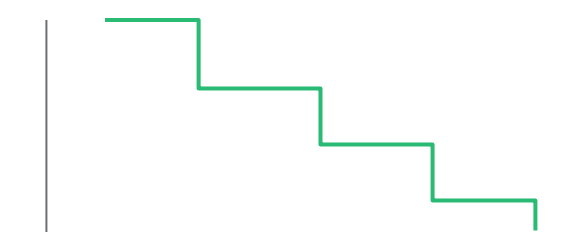
可視性



必要な機能を実装したらリリースをし、エンドユーザーからのフィードバックを基に、追加機能のリリースを繰り返す。これにより、予測性が高まり、プロジェクトを通して成果を得ることができる。



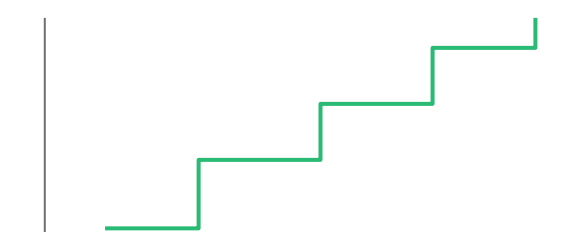
リスク管理



トップ技術者とのパートナーシップより実証済みのリーン・アジャイル開発手法と、追加リソースを投入する前にソリューションの価値検証をするためのPoCの使用により、リスクを段階的に軽減。



ビジネスへの貢献



ビジネス価値に基づいた要件の優先順位付けにより、最も価値の高い機能へのリソースを優先する。これにより、プロジェクトの利益を増分的かつ継続的に生み出すことが可能になる。

時間

時間



いつでもお気軽にご相談ください！
[お問い合わせはこちらから](#)

Rethink. Renew yourself. Find yourself again.

あなた自身の変革を起こすために



ciandt.co.jp